

高齢者は、人知れず「認知症」に怯^{おび}えている。80歳のYさん。認知症でもないのに、「センチ。頭に良い薬が出たそつだ。すべへでも」と落ち着かない。

1月の日に、アメリカで、「シカネマブ」というアルツハイマー病の新治療薬が迅速承認された、10日遅れで、日本でも承認申請された。が、実際使えるようになるのは、いつのことか。

認知症の6、7割は、アルツハイマー病である。シカネマブは、アルツハイマー病の原因である「アミロイドβ」「コルタン」抗体でできた注射薬だ。点滴で使う。脳内に沈着したアミロイドβを減少させ、アルツハイマー病の進行を抑えるものと期待される。

軽いアルツハイマー病の患者さんを対象とした試験では、シカネマブ投与後1年半経過をみていて、半年くらいは進行が遅くなっていた。つまり、症状の進行速度が27%くらい緩やかになったという。

ただし、脳出血などの副作用もないわけではない。すでに飲んでいる薬によっては、使えないひともいる。「喉から手が出るほどの薬」でもなさそつだ。

でも、アミロイドβをPET（陽電子放出断層撮影）で調べてみると、シカネマブ投与後には、確かにアミロイドβの量が減っている。アルツハイマー病というのは、アミロイドβが沈着し始めてから10年、20年後に発症する。ならば、発症する前にPETなどでアミロイドβの沈着を見付ける。その時点でシカネマブを使えば、アルツハイマー病を予防できる可能性はある。

もっとも、PETは、検査できる施設に限られる。保険は使えず、私費だ。認知症予防にも、保険は使えない。シカネマブは、高い薬だ。などと、現実は厳しい。が、高齢者にも夢が必要である。これは、Yさんには、「適応があれば、一番に使います」と言っておこう。

（石黒修三＝いしほろクリニック・脳神経